

## 孤風院・Multi lighting project

建築学科 3年 江口喬亮 担当教員：田中智之

### 1. はじめに

孤風院とは、熊本大学工学部の前身である熊本高等工業学校の講堂として、明治41年に落成した、熊本に残る明治期の本格的木造洋風建造物の代表的存在である。今年で築後100周年となる。本学教授であった木島安史氏が阿蘇に移築し、現在は木島家の所有物となっている。

また木島千嘉さんらご家族の好意で、建築を学ぶ学生の教材・学習の場として提供されており、近年は孤風院にて学生や教員や専門家と協働して新しい保存・継承のかたちを考えている。これまでも庭の倉庫、音楽の為の家具、通気システム等を実作し、一昨年、孤風院の窓の外に新しく足湯を製作し、昨年は壁の補修仕上げ工事を行った。



図1 孤風院の外観

るという計画が立ち上がった。孤風院の劇場空間化を目指したプロジェクトの一環として今年には日常生活や劇場空間などの様々なシーンに対応できる照明システム（マルチライティングシステム）を作り出すべく活動した。

照明の実施製作に関しては、福岡市を拠点に照明デザイナーとして活躍されている松下美紀氏や、本学工学部より田中智之氏、下田貞行氏（八代工業高等専門学校）、木島千嘉氏（建築家）、高木淳二氏（建築家）などプロの方々より意見を募り、多角的な検討を行うことができた。

また、照明システムの構想の時点で、他大学（熊本県立大学・崇城大学）の学生と共に現地調査や木島安史氏の建築作品を巡るツアーなどを敢行し、交流学習することで学生間における新たなネットワークを形成し、そこで得られた技術・知識を実際の建築空間において照明という形で表現することもできた。

成果物としては、回廊空間の演出を中心とした照明となった。

1. 色によって空間を特徴づける照明
2. グラデーションと指向性をもつ照明
3. BOX型照明（持ち運び可）

上面には腰掛けることができ、椅子としての機能も持たせている。

4. ブックレット型照明

今回のプロジェクトでは、マネジメントサイクルの典型であるPDCAサイクル（plan do check action）を学生自ら考え行ったというプロセスも非常に大きな収穫となった。



図2 照明システム

### 2. プロジェクト実施概要

今回のプロジェクトは、人間と同様に建築の高齢化が進む現代社会（取り壊し、新しいものを生み出すことにばかり価値を見出しがちである現状）において、有効な保存改修システムを模索し、試行することを目的とし、そのケーススタディとして位置づけている。具体的に今回は現在照明のない孤風院において、多様な空間の使われ方をサポートし、また永続的に使いながらつくり続ける為の作業用照明にもなる照明システムを考え実践した。

孤風院の回廊型平面はオープンステージタイプ劇場のようでもあり、また天井が高いため、内装や照明器具を工夫すれば、さまざまな演劇・音楽発表会が可能な「劇場空間」になる。そこで孤風院を劇場空間化する